

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0510	事業名	一般管理事業				
所属名	総務局総務部総務課		評価責任者	総務課長 細井 徹			
			作成責任者	八川 史奈	ダイヤルイン	052-954-6070	
政策名	総務行政の円滑な運営		施策名	部局総務・広報事務の円滑な執行			
事業目的	各種管理事務経費						
根拠法令・計画等	地方自治法、愛知県政功労者礼遇規程等						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	19人 ( 0人)	17人 ( 0人)	17人 ( 0人)	19人 ( 0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	5人 ( 0人)	5人 ( 0人)	5人 ( 0人)	5人 ( 0人)	
	経費	人件費(a)	414,414 千円	192,306 千円	197,753 千円	222,093 千円	
		事業費(b)	261,463 千円	240,935 千円	158,046 千円	166,760 千円	
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
		計(a)+(b)+(c)	675,877 千円	433,241 千円	355,799 千円	388,853 千円	
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		671,675 千円	428,835 千円	354,397 千円	388,093 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>各課の管理運営経費(物品の購入費・事務機器の使用料等)及び報酬等の執行を行う。</p> <p>1 管理事務費:261,463千円(管理事務費218,363千円、庁費43,100千円)</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
		5年度	-	46円	(実績)		
		2		最終目標			
				6年度			(見込)
		5年度			(実績)		
		3		最終目標			
				6年度			(見込)
		5年度			(実績)		
		4		最終目標			
				6年度			(見込)
		5年度			(実績)		
		5		最終目標			
				6年度			(見込)
5年度			(実績)				
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>- (判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:管理事業全体の達成度を評価するのに最も適した指標のため。)</p> <p>・管理的経費の効率的かつ効果的な執行に努め、予算内における事業費の適正な執行を図ることができた。</p>						
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは全庁的な庁費が減少したこと等により、4年度51円に比べ5円減少した。						
課題	管理事務費は、その時々々の案件に応じて費用の上下動はあるものの、局の管理運営に必要な費用であるため、一定規模の経費を確保する必要がある。						
今後の方向性	経費の効率的な執行に努めていくものの、行政サービスの質を低下させないように、事務の進め方を見直しながら管理運営を行っていく。						

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0520	事業名	行政改革推進事業費			
所属名	総務局総務部総務課	評価責任者	総務課長 細井 徹			
		作成責任者	御園 玲奈	ダイヤルイン	052-954-6026	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	行政改革に関する取組の促進		
事業目的	あいち行革プラン2020に基づき、行政改革を推進する。					
根拠法令・計画等	あいち行革プラン2020 地方自治法第2条第14項及び第15項					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	11.90人 ( 0人)	10.90人 ( 0人)	10.90人 ( 0人)	10.90人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	116,608 千円	103,195 千円	107,752 千円	106,418 千円
		事業費(b)	62,613 千円	61,017 千円	41,918 千円	33,664 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	179,221 千円	164,212 千円	149,670 千円	140,082 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	経費のうち、一般財源等		179,221 千円	164,212 千円	149,670 千円	140,082 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>あいち行革プラン2020に基づく行政改革の取組について県全体の進行管理を行うとともに、公の施設へのネーミングライツの導入検討、PFIの導入推進等を行う。</p> <p>行政改革推進費:62,613千円</p> <p>1 行革大綱推進費:57,004千円(行政改革促進費653千円)</p> <p>2 出資法人等経営改革推進費:123千円(出資法人等経営検討委員会開催費123千円)</p> <p>3 ネーミングライツ推進費:787千円(ネーミングライツ価格調査費787千円)</p> <p>4 PPP/PFI推進事業費:2,462千円(PPP/PFI導入検討調査費2,182千円)</p> <p>5 次期行革大綱策定費:2,237千円(次期行革大綱策定費2,237千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	あいち行革プラン2020の取組により得られる行革効果額	最終目標	2～6年度 計180億円以上	
				6年度	累計180億円	累計186億円 (見込)
				5年度	累計144億円	累計154億円 (実績)
		2	県関係団体経営改善計画の年次数値目標に対する目標達成指標数	最終目標	全指標で目標達成	
				6年度	全指標で目標達成	34/82指標 (見込)
				5年度	全指標で目標達成	34/82指標 (実績)
		3	リードタイム(業務処理・停滞時間の縮減)	最終目標	6年度までに累計150,000時間以上	
				6年度	累計150,000時間縮減	累計150,000時間 (見込)
				5年度	累計120,000時間縮減	累計135,509時間 (実績)
		4	グッドジョブ運動への延べ応募者数	最終目標	6年度までに累計15,000件以上	
				6年度	累計15,000件	累計16,000件 (見込)
				5年度	累計13,800件	累計15,006件 (実績)
		5	県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
	5年度			-	20円 (実績)	
	外部要因等	なし				
	目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:行政改革による効果額を客観的に表すことができるため)</p> <p>・主要な指標であるあいち行革プラン2020の取組により得られる行革効果額において目標値を上回った。その他の指標については、3指標中2指標が目標を上回っているため、管理事業全体としては、相当程度進展があった。</p>				
	コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、ノーコード・ローコードツール導入事業費の増加等により、4年度18円に比べ2円増加した。				
	課題	人口減少や働き方改革・休み方改革、DXの進展など県政を取り巻く環境が非常に速いスピードで変化中、これまで以上に環境変化に迅速・的確に対応し、県民サービスの向上を図るためには、限られた経営資源を一層効果的・効率的に活用し、行財政改革に取り組んでいく必要がある。				
今後の方向性	あいち行革プラン2020に掲げた個別取組事項については、計画に沿って着実に取組が進められており、プランの全体的な進捗としては概ね順調である。プランの計画期間は6年度までとなっていることから、6年中に次期行革大綱を策定し、引き続き、行財政改革に取り組んでいく。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0530	事業名	外部監査事業費			
所属名	総務局総務部総務課	評価責任者	総務課長 細井 徹			
		作成責任者	松田 彩	ダイヤルイン	052-954-6077	
政策名	簡素で効率的な行財政運営の実現		施策名	行政改革に関する取組の促進		
事業目的	監査機能の専門性を強化し、業務改善を促進する。					
根拠法令・計画等	地方自治法第252条の27第2項、第252条の36					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0.50人( 0人)	0.50人( 0人)	0.50人( 0人)	0.50人( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)
	経費	人件費(a)	4,899千円	4,734千円	4,415千円	4,545千円
		事業費(b)	18,446千円	18,446千円	18,412千円	18,412千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	23,345千円	23,180千円	22,827千円	22,956千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		23,345千円	23,180千円	22,827千円	22,956千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>監査機能の独立性・専門性の一層の充実、透明性の確保を目的として、包括外部監査人が、特定のテーマを選定し、監査を実施する。また、監査結果に対して、各局は措置を行い、その状況について公表する。</p> <p>1 外部監査費:18,446千円(包括外部監査委託費18,412千円、事務費34千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	監査結果に対して措置を行った割合	最終目標	100%	
				6年度	100%	94.60% (見込)
				5年度	100%	94.60% (実績)
		2	監査件数	最終目標	1件以上	
				6年度	1件以上	1件 (見込)
				5年度	1件以上	1件 (実績)
		3	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	3円 (実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:外部の専門的な知識を有する者の監査を実施するため)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歳出(貸付金を除く)を伴う契約について」をテーマとして、外部の専門的な知識を有する者による監査を適正に実施することができたため、管理事業全体としては、相当程度進展があった。</li> <li>・監査結果に対して措置を行った割合については、まだ改善中の項目もあるため、目標を達成することができなかった。</li> </ul>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、経費の主要な部分である包括外部監査委託費に変動がなかったため、4年度の3円から増減なし。					
課題	外部監査実施後の監査結果を事務手続きに反映させるためには、関係機関との調整に時間を要するケースもある。しかしながら、県民に対する事務事業の透明性を確保するためには、できるだけ速やかな措置が実施されるよう進めていく必要がある。					
今後の方向性	監査において指摘や意見を受けた事項については、その情報を庁内で共有し、適正な事業の執行を行っていく。また、改善が必要となる項目が生じた場合には早急に改善に努めていく。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0540	事業名	庁舎管理事業費			
所属名	総務局財務部財産管理課	評価責任者	財産管理課長 清田 佳治			
		作成責任者	大岩 祐貴	ダイヤルイン	052-954-6055	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	本庁舎の適正な運用		
事業目的	1 県庁舎等の良好な維持管理 2 電話交換設備等の維持管理及び電話交換業務の適切な遂行					
根拠法令・計画等	地方自治法第149条、地方財政法第8条及び愛知県庁内管理規則					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	20.50人( 0人)	21.50人( 0人)	21.50人( 0人)	20.50人( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	21人( 0人)	21人( 0人)	21人( 0人)	21人( 0人)
	経費	人件費(a)	275,694千円	258,811千円	279,364千円	273,711千円
		事業費(b)	864,898千円	876,295千円	899,363千円	781,283千円
		公債費(c)	614,049千円	2,093,155千円	2,112,383千円	771,690千円
		計(a)+(b)+(c)	1,754,641千円	3,228,261千円	3,291,109千円	1,826,683千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	79,345千円	63,551千円	
経費のうち、一般財源等		1,724,330千円	3,221,895千円	2,285,175千円	1,479,717千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県庁舎等を常に良好な状態に維持するため、庁舎の防火・秩序維持、保全管理を行うとともに、庁内案内、電話交換等の事業を行う。 (総務局、人事局、県民文化局、福祉局)</p> <p>1 愛知県庁舎分:770,903千円(光熱水費453,323千円、その他管理運営費317,580千円) 2 東大手庁舎分:84,264千円(光熱水費50,163千円、その他管理運営費34,101千円) 3 大津橋分室分:3,563千円(光熱水費2,028千円、その他管理運営費1,535千円) 4 出来町庁舎分:6,168千円(光熱水費3,771千円、その他管理運営費2,397千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	電話のダイヤルイン率の向上	最終目標	毎年度目標値以上	
				6年度	90%	96.8% (見込)
				5年度	90%	96.8% (実績)
		2	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	448円 (実績)
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B:目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:電話交換業務における県民サービス向上のために管理事業上重要な課題であるため) ・管理事業全体としては、主要な指標において目標どおり達成した。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、自治センター受変電設備改修工事等に伴う物件費の増加等により、4年度の305円に比べ143円増加した。					
課題	本庁舎を始めとした各庁舎の長寿命化を図りつつ、良好な状態に維持していく必要がある。また、その際には、ダイヤルインの積極的な利用など効率的な管理に努める必要がある。					
今後の方向性	引き続き、県庁舎等を良好な状態に維持するとともに、県民サービス向上のため、ダイヤルインの利用啓発など、県民サービスの向上と効率的な庁舎等の管理に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0550	事業名	東三河総局・県民事務所管理運営事業			
所属名	総務局総務部総務課	評価責任者	総務課長 細井 徹			
		作成責任者	井村 亮介	ダイヤルイン	052-954-6021	
政策名	総務行政の円滑な運営		施策名	部局総務・広報事務の円滑な執行		
事業目的	東三河総局及び県民事務所の適正な管理運営を行う。					
根拠法令・計画等	愛知県行政機関設置条例、愛知県行政組織規則					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	50.60人 ( 50人)	46.60人 ( 46人)	50.60人 ( 50人)	46.60人 ( 46人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	14人 ( 14人)	14人 ( 14人)	14人 ( 14人)	14人 ( 14人)
	経費	人件費(a)	584,968 千円	556,683 千円	533,259 千円	495,605 千円
		事業費(b)	3,843,597 千円	3,862,633 千円	3,521,926 千円	958,336 千円
		公債費(c)	829,683 千円	858,151 千円	885,248 千円	1,725,602 千円
		計(a)+(b)+(c)	5,258,248 千円	5,277,467 千円	4,940,432 千円	3,179,543 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	23,540 千円	24,143 千円
	経費のうち、一般財源等		5,257,802 千円	5,277,153 千円	3,248,398 千円	2,686,753 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	東三河総局及び県民事務所等の施設管理、運営及び総務・会計事務を行う。					
	1 東三河総局費:132,380千円					
	(1) 運営費:109,726千円(管理運営費102,732千円)					
	(2) 施設設備整備費:22,654千円(東三河総合庁舎電話交換設備更新工事費22,654千円)					
	2 県民事務所費:3,711,217千円					
	(1) 運営費:255,542千円(管理運営費234,397千円)					
	(2) 施設設備整備費:1,056,715千円(西三河総合庁舎長寿命化改修工事費1,043,735千円)					
	(3) 知多総合庁舎・知多福祉相談センター集約化整備事業費:2,080,041千円(知多総合庁舎建築工事費2,055,095千円)					
	(4) 豊田加茂総合庁舎・豊田加茂福祉相談センター集約化整備事業費:318,919千円(豊田加茂総合庁舎施工業務費(214,538千円))					
	評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込
1			施設原因での事故数	最終目標	0回	
				6年度	0回	0回 (見込)
				5年度	0回	0回 (実績)
2			エネルギー使用量 (単位:GJ(ギガジュール))	最終目標	38,355GJ以下	
				6年度	38,355GJ以下	38,300GJ以下 (見込)
				5年度	38,758GJ以下	42,403GJ (実績)
3			県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	468円 (実績)
4			最終目標			
			6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
5			最終目標			
			6年度		(見込)	
	5年度			(実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、時差勤務が推奨されて以降、時差勤務への対応として冷暖房の運転を弾力的に行ったため、エネルギー使用量が増加した。					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(施設で執務する職員や来庁者の身の安全の確保のため) ・施設原因での事故数について、適正な施設の定期点検や計画的な庁舎修繕の実施等により、施設管理・運営は総じて適切に行われていた。 ・エネルギー使用量については、こまめな消灯等により節電の実施に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、時差勤務への対応として冷暖房の運転を弾力的に行ったこと等の影響もあり、全体としては事業目標を達成することができなかった。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、長寿命化改修工事費の増により、4年度200円に比べ268円増加した。					
課題	いずれの庁舎も竣工から20年以上が経過し、経年劣化による損傷が激しいため、これまで以上に突発的な事案が発生することが予想される。					
今後の方向性	日常的に庁舎内の異常・危険個所がないかどうかを確認し、施設の安全及び保守管理を徹底することにより施設における事故が起きないように努める。また、節電への取組を継続し、エネルギー使用量を抑える。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0610	事業名	法務文書事業費			
所属名	総務局総務部法務文書課	評価責任者	法務文書課長 小山 厚子			
		作成責任者	平松 舞子	ダイヤルイン	052-954-6022	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	適正な法務文書事務の円滑な運営		
事業目的	適正な法務文書事務の円滑な運営を図る。					
根拠法令・計画等	愛知県行政文書管理規程、愛知県公印規則、愛知県公告式条例 愛知県公報規則、愛知県公文書館条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	23人(0人)	23人(0人)	23人(0人)	23人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	26人(0人)	26人(0人)	26人(0人)	26人(0人)
	経費	人件費(a)	319,692千円	299,410千円	294,735千円	296,112千円
		事業費(b)	106,575千円	119,467千円	99,328千円	125,466千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	426,267千円	418,877千円	394,062千円	421,579千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		5千円	5千円	10千円	2千円
	経費のうち、一般財源等		425,640千円	418,228千円	392,283千円	419,877千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>文書の管理、公印の管守、県公報の編集・発行、県法規集の編集、法規の審査、行政書士の指導・監督、訴訟務の総括調整、公益法人及び公益信託の事務の総括調整、法務事務の指導、公文書館の管理等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法規審査費、訟務費:27,453千円(弁護士謝金10,835千円)</li> <li>文書管理費:2,677千円(文書集配委託費2,677千円)</li> <li>総合文書管理システム推進費:57,743千円(システム運用費29,835千円、機器等賃借料27,648千円)</li> <li>県公報発行費:7,275千円(県公報印刷料5,336千円)</li> <li>公文書館費:11,427千円(県史収集資料整理・活用費4,666千円)</li> </ol>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	行政文書の電子処理率(電子処理件数÷全処理件数)	最終目標	68%	
				6年度	68%	88.70% (見込)
		5年度	68%	88.60% (実績)		
		2	法務事務相談件数	最終目標	60件以上	
				6年度	60件以上	60件以上 (見込)
		5年度	60件以上	67件 (実績)		
		3	条例案審査の進捗率(審査件数÷発案件数)	最終目標	100%	
				6年度	100%	100% (見込)
		5年度	100%	100% (実績)		
4	県公報の全記事件数に占める編集上のミスによる誤記記事数の割合	最終目標	0%			
		6年度	0%	0.06% (見込)		
5年度	0%	0.13% (実績)				
5	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-			
		6年度	-	- (見込)		
5年度	-	53円 (実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)                  ◎主要な指標:3(理由:法務文書事業の中核となる事業の指標であるため。)                  ・一部の指標で目標が達成されなかったが、主要な指標は目標を達成しており、管理事業全体としては相当程度の進展があった。                  ・総合文書管理システム推進事業については、電子決裁徹底の働きかけにより、目標が達成された。                  ・訟務事業については、前年度と比較して法務事務相談(法務文書課職員によるもの)の件数が増加し、目標が達成された。                  ・法規審査事業については、グループ内で進捗を管理しつつ計画的に審査を行ったことにより、目標が達成された。                  ・県公報発行事業については、誤りのないよう注意して原稿の編集及び校正を行ったが、目標を達成することができなかった。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、物件費等が減少したこと等により、4年度55円に比べ2円減少した。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>県公報発行事業において、5年度は目標を達成することができなかったため、誤記記事をなくすため、原稿の編集及び校正作業におけるミスをなくす必要がある。</li> </ul>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合文書管理システム推進事業については、電子処理率の低い所属に対し、電子的管理の周知・徹底を図る。</li> <li>訟務事業については、全庁に対して、法務事務相談の活用について周知を図る。</li> <li>法規審査事業については、現状を維持する。</li> <li>県公報発行事業については、過去の誤り事例を職員間で共有し、同様の誤りが生じないようにする。</li> </ul>					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0630	事業名	財政管理事業			
所属名	総務局財務部財政課	評価責任者	財政課長 松浦 隆太			
		作成責任者	宇佐美 大聖	ダイヤルイン	052-954-6040	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	予算の編成・執行管理を通じた健全な財政運営の確保		
事業目的	歳出構造の抜本的な改革と歳入の的確な確保に取り組み、健全な財政運営の確立に努める。					
根拠法令・計画等	地方自治法第211条、地方交付税法、地方財政法、当せん金付証券法、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律、各基金条例等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	36.90人 ( 0人)	36.90人 ( 0人)	36.90人 ( 0人)	36.90人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	352,070 千円	360,052 千円	375,717 千円	385,699 千円
		事業費(b)	753,016 千円	671,552 千円	198,418 千円	37,052,670 千円
		公債費(c)	6,935 千円	6,935 千円	6,957 千円	6,976 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,112,021 千円	1,038,539 千円	581,092 千円	37,445,346 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		653,256 千円	642,102 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		△3,557,738 千円	△3,087,355 千円	△32,097,928 千円	30,153,660 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>予算の編成、その他財政に関する事務、国庫支出金等の返還及び財政調整基金の積立等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 管理事務費:20,043千円</li> <li>2 国庫支出金等返還金:500,000千円</li> <li>3 財政調整基金利子収益積立金:142,424千円</li> <li>4 減債基金利子収益積立金:90,549千円</li> </ol>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 地方財政健全化法に基づく財政指標	最終目標	毎年度早期健全化基準未滿		
			6年度	早期健全化基準未滿	早期健全化基準未滿 (見込)	
			5年度	早期健全化基準未滿	早期健全化基準未滿 (実績)	
		2 宝くじ発売による収益金	最終目標	毎年度当初予算額以上		
			6年度	12,525,142千円	12,525,142千円 (見込)	
			5年度	12,803,174千円	11,274,237千円 (実績)	
		3 県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
			6年度	-	-	
			5年度	-	61円 (実績)	
	4	最終目標				
		6年度		(見込)		
		5年度		(実績)		
	5	最終目標				
		6年度		(見込)		
5年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:法律に基づく指標であるため)</p> <p>・地方財政健全化法に基づく指標において、目標通り早期健全化基準未滿を達成した。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、物件費や移転的経費の増加等により、4年度56円に比べ5円増加した。					
課題	本年度当初予算において、減債基金及び財政調整基金の取崩しを計上したことで収支不足を解消したが、依然として多額の基金取崩しに依存する厳しい財政状況が継続している。その中で、基金残高を回復させるために、年度内の財源確保に努める必要がある。					
今後の方向性	厳しい財政状況の中、健全な財政運営を行うことができるよう、定期的な業務の見直しにより、適切な業務処理に務める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未滿の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0640	事業名	財産管理事業			
所属名	総務局財務部財産管理課	評価責任者	財産管理課長 清田 佳治			
		作成責任者	今泉 祐貴	ダイヤルイン	052-954-6056	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	県有財産の適正な管理・保全		
事業目的	公有財産に関する制度を整え、必要な調整を図るとともに、公有財産の取得、管理及び処分の適正を期する。					
根拠法令・計画等	地方自治法、地方財政法、愛知県公有財産規則、愛知県行政組織規則					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	17.50人 ( 0人)	13.50人 ( 0人)	13.50人 ( 0人)	14.50人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	171,482 千円	137,278 千円	122,949 千円	135,559 千円
		事業費(b)	3,160,244 千円	3,446,542 千円	3,308,586 千円	1,371,078 千円
		公債費(c)	76,469 千円	76,693 千円	81,710 千円	76,839 千円
		計(a)+(b)+(c)	3,408,195 千円	3,660,513 千円	3,513,245 千円	1,583,477 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	経費のうち、一般財源等		3,062,047 千円	3,440,451 千円	2,608,450 千円	△605,163 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	公有財産の取得、管理及び処分を行うとともに、庁舎の維持修繕等に関する事業を行う。 (総務局、人事局、防災安全局、建築局)					
	1管理事務費:118,057千円(公有財産管理システム改修費98,736千円、県有地一般競争入札等関係費12,348千円)					
	2火災保険料:9,152千円					
	3県有資産所在市町村交付金:254,910千円					
	4県有地測量調査費:14,054千円					
	5庁舎設備管理運営費:298,944千円					
	6庁舎維持修繕費:393,102千円					
	7庁舎設備整備費:1,293,023千円					
	8本庁舎開放事業費:6,751千円					
	9県有施設長寿命化推進事業費:363千円					
	10本庁舎長寿命化改修費:771,888千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	未利用地の解消件数	最終目標	毎年度目標値以上	
				6年度	3件	3件 (見込)
				5年度	3件	6件 (実績)
				最終目標	毎年度目標値以上	
				6年度	1件	1件 (見込)
		2	未利用財産を民間からの募集提案により活用に結び付けた件数	5年度	1件	0件 (実績)
				最終目標	毎年度目標値以上	
		3	県有地や県有施設の空きスペースの利活用拡大による収入額	最終目標	毎年度目標値以上	
				6年度	1,500万円	1,500万円 (見込)
	5年度			1,500万円	25,225万円 (実績)	
	4	本庁舎開放事業の実施	最終目標	毎年度継続実施		
			6年度	1回	1回 (見込)	
			5年度	1回	1回 (実績)	
	5	県民当たりコスト (PL経常費用／本県人口)	最終目標	-		
			6年度	-	- (見込)	
			5年度	-	116円 (実績)	
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:未利用地の売却や有効活用を進めることにより、自主財源の確保を図ることができるため。) ・主要な指標で目標を上回って達成しており、一定の成果が得られた。					
コスト指標の増減分析	令和5年度の県民あたりコストは、物件費の増加等により令和4年度の99円に比べ17円増加した。					
課題	行政財産の用途廃止等により毎年度、一定の未利用地が生じることを踏まえ、将来にわたり利活用の予定のない土地を適正に処分するなど、引き続きその解消に努める必要がある。					
今後の方向性	引き続き未利用地の解消と、県有地や県有施設の空きスペースの利活用による収入額の確保に取り組むとともに、県有財産の取得、管理及び処分の適正を期するため必要な調整を行う。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0650	事業名	県税事務所管理運営事業			
所属名	総務局財務部税務課	評価責任者	税務課長 市原 明			
		作成責任者	川上 貴久	ダイヤルイン	052-954-6047	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	県税収入の確保		
事業目的	県税事務所の庁舎運営を行うための経費で、行政財産の維持管理等を目的とする。					
根拠法令・計画等	地方自治法、給与条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	82.60人 ( 75人)	82.60人 ( 75人)	82.60人 ( 75人)	82.60人 ( 75人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	16人 ( 14人)	16人 ( 14人)	16人 ( 14人)	16人 ( 14人)
	経費	人件費(a)	859,864 千円	825,807 千円	806,283 千円	825,308 千円
		事業費(b)	656,696 千円	867,389 千円	751,585 千円	515,527 千円
		公債費(c)	51,008 千円	48,988 千円	52,260 千円	49,125 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,567,568 千円	1,742,184 千円	1,610,128 千円	1,389,960 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		13,530 千円	13,530 千円	13,637 千円	14,279 千円
経費のうち、一般財源等		1,551,540 千円	1,726,845 千円	1,337,904 千円	1,307,545 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県税事務所庁舎の管理運営及び施設整備、会計年度任用職員報酬等の執行を行う。</p> <p>1 県税事務所管理運営事業費:656,696千円  (1)運営費:491,372千円(光熱水費:50,210千円、名古屋東部県税事務所賃借料:159,210千円)  (2)施設設備整備費:165,324千円  (名古屋南部県税事務所空調設備改修工事費:122,491千円、名古屋北部県税事務所屋上防水更新工事費:42,833千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 県税の適切な徴収	最終目標	県税の適切な徴収		
			6年度	県税の適切な徴収	県税の適切な徴収 (見込)	
			5年度	県税の適切な徴収	県税の適切な徴収 (実績)	
		2 収入未済額の圧縮	最終目標	収入未済額の圧縮		
			6年度	収入未済額の圧縮	5年度以下 (見込)	
			5年度	収入未済額の圧縮	4年度超 (実績)	
		3 県民当たりコスト (PL経常費用／本県人口)	最終目標	—		
			6年度	—	— (見込)	
			5年度	—	199円 (実績)	
		4	最終目標			
			6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
		5	最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C: 相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:収入未済額を圧縮して財源を確保することが、庁舎運営のために不可欠であるため) ・収入未済額が4年度の約116億円から約1億円増加したが、県税全体の徴収率は約99.1%と、前年度とほぼ同水準にあり、庁舎の維持管理を支障なく努めることができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、修繕費等が増加したことにより、4年度の174円に比べ、25円増加した。					
課題	県税事務所庁舎運営において老朽化等により修繕費が増加傾向にあるが、庁舎は納税者との折衝の場であり、県税収入未済額を縮減する第一線であることから、適切に庁舎の維持管理を行う必要がある。					
今後の方向性	租税負担の公平性と財源確保を目指し、信頼される税務行政の推進を図るとともに、今後も適切な徴収に努め、県税の収入未済額の圧縮に積極的に取り組んでいく。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0660	事業名	賦課徴収事業			
所属名	総務局財務部税務課	評価責任者	税務課長 市原 明			
		作成責任者	川上 貴久	ダイヤルイン	052-954-6047	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	県税収入の確保		
事業目的	公平適正な課税及び早期かつ効率的な滞納整理、税務システムによる賦課徴収事務を行う。					
根拠法令・計画等	地方税法等					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)		5年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	718.10人 ( 671人)	723.10人 ( 676人)	723.10人 ( 676人)	729.10人 ( 680人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	108人 ( 105人)	108人 ( 105人)	108人 ( 105人)	108人 ( 106人)
	経費	人件費(a)	7,454,156 千円	7,221,268 千円	6,797,249 千円	7,026,756 千円
		事業費(b)	28,713,750 千円	27,244,393 千円	26,063,129 千円	26,647,408 千円
		公債費(c)	4,538 千円	3,790 千円	4,374 千円	3,484 千円
		計(a)+(b)+(c)	36,172,444 千円	34,469,451 千円	32,864,751 千円	33,677,648 千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		12,886 千円	31,233 千円	30,678 千円	26,873 千円
	経費のうち、一般財源等		34,851,624 千円	33,142,347 千円	31,359,465 千円	32,383,055 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県税12税目の賦課徴収事務、税務システムの管理及び運営を行う。</p> <p>1 賦課徴収事務費:764,262千円(県税確保特別対策費:285,188千円 郵便電信料:321,858千円)</p> <p>2 税務情報処理費:1,220,387千円(業務運営費:400,653千円 システム運営費:561,385千円)</p> <p>3 県税取扱費:14,002,345千円(県民税徴収取扱費交付金:13,189,900千円 地方消費税徴収取扱費:812,000千円)</p> <p>4 納税奨励費:1,531,659千円(間税特別徴収義務者交付金:1,527,708千円 納税思想普及費:3,316千円)</p> <p>5 県税過誤納還付金及び還付加算金:11,147,000千円</p> <p>6 証紙特別会計繰出金:48,097千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 県税の適切な徴収	最終目標	県税の適切な徴収		
			6年度	県税の適切な徴収	県税の適切な徴収 (見込)	
			5年度	県税の適切な徴収	県税の適切な徴収 (実績)	
			最終目標	収入未済額の圧縮		
			6年度	収入未済額の圧縮	5年度以下 (見込)	
		5年度	収入未済額の圧縮	4年度超 (実績)		
		3 県民当たりコスト(PL経常費用／本県人口)	最終目標	—		
			6年度	—	— (見込)	
			5年度	—	4,397円 (実績)	
	4	最終目標				
		6年度		(見込)		
	5年度		(実績)			
	5	最終目標				
		6年度		(見込)		
5年度		(実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:県税収入状況を的確に表す指標であるため)</p> <p>・収入未済額が4年度の約116億円から約1億円増加したが、滞納整理強化の取組みやコンビニエンスストア納税などの納税環境整備を継続したことで、県税全体の徴収率は約99.1%と、前年度とほぼ同水準を維持することができた。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、県税過誤納還付金等の支出が減少したことにより、4年度の4,436円に比べ、39円減少した。					
課題	収入未済額は減少傾向である一方、新たな滞納整理困難案件の発生や徴収経験の長い職員が減少している状況から、より専門性の高い徴収担当職員を育成する方策等を継続的に講じる必要がある。					
今後の方向性	租税負担の公平性と財源確保を目指し、信頼される税務行政の推進を図るとともに、今後も適切な徴収に努め、県税の収入未済額の圧縮に積極的に取り組んでいく。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0670	事業名	市町村連絡調整事業			
所属名	総務局総務部市町村課	評価責任者	市町村課長 向井 直樹			
		作成責任者	白澤 杏香	ダイヤルイン	052-954-6064	
政策名	市町村の行財政能力の向上		施策名	市町村の適正な行財政運営の確保		
事業目的	市町村の行財政能力の一層の向上と行政体制の整備の支援、連絡調整等を行い、また住民基本台帳ネットワークの適正な運営の管理等を行う。					
根拠法令・計画等	地方自治法、地方公務員法、地方財政法、地方交付税法、地方公営企業法、地方税法、市町村の合併の特例に関する法律、住民基本台帳法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	115人( 0人)	111人( 0人)	111人( 0人)	120人( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人( 0人)	1人( 0人)	1人( 0人)	1人( 0人)
	経費	人件費(a)	1,130,742 千円	1,054,426 千円	1,015,708 千円	1,133,759 千円
		事業費(b)	212,554 千円	213,763 千円	204,534 千円	204,666 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,343,296 千円	1,268,189 千円	1,220,243 千円	1,338,425 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		833,411 千円	772,177 千円	733,752 千円	771,715 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>市町村の行財政能力の一層の向上と行政体制の整備の支援及びそれに伴う連絡調整等を行う。また住民基本台帳ネットワークが適正に運営されるよう管理等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行財政連絡調整費:6,255千円(調査統計電子計算処理委託料2,215千円等)</li> <li>2 行財政運営支援事業費:963千円(市町村行政体制整備個別相談事業743千円等)</li> <li>3 住民基本台帳ネットワーク運営費:205,286千円(地方公共団体情報システム機構負担金61,452千円等)</li> <li>4 自衛官募集費:50千円(事務費50千円)</li> </ol>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県内市町村のうち、経常収支比率が全国平均以上の市町村の割合	最終目標	毎年度目標値以上	
				6年度	90%	R5実績と同数値(見込)
		5年度	90%	77.8%(実績)		
		2	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	154円(実績)
		3	住民基本台帳ネットワークシステム構築・運用率	最終目標	毎年度100%	
				6年度	100%	100%(見込)
				5年度	100%	100%(実績)
	4	計画された事業の円滑な実施	最終目標	毎年度100%		
			6年度	100%	100%(見込)	
			5年度	100%	100%(実績)	
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度				(実績)		
外部要因等	経常収支比率については、税収動向(景気動向)により大きな影響を受ける。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:住民基本台帳ネットワークシステムの構築・運用は、県内全市町村に関係する事務であるため。)</p> <p>・主要な指標である住民基本台帳ネットワークシステム構築・運用率は目標値を達成した。その他の指標については、2指標中1指標が目標を達成しているため、管理事業全体としては、相当程度進展があった。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、退職手当引当金繰入額の減額等により、4年度の166円に比べ12円減少した。					
課題	住民基本台帳ネットワークの活用をより一層進めるとともに、引き続きセキュリティ確保を図っていく必要がある。					
今後の方向性	引き続き現状を維持し、目標の達成に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0680	事業名	自治振興事業			
所属名	総務局総務部市町村課	評価責任者	市町村課長 向井 直樹			
		作成責任者	白澤 杏香	ダイヤルイン	052-954-6064	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	地方分権の取組の推進		
事業目的	市町村の機能強化と効率的な行政運営の実現に向けて市町村等に対して支援等を行う。市町村の健全な発展を図り住民福祉の向上に寄与する。					
根拠法令・計画等	地方自治法、地方財政法、愛知県事務処理特例条例、元気な愛知の市町村づくり補助金交付要綱、当せん金付証票法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	2.30人 ( 0人)	2.30人 ( 0人)	2.30人 ( 0人)	2.30人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	22,538 千円	21,775 千円	22,212 千円	23,261 千円
		事業費(b)	3,134,350 千円	2,902,296 千円	2,537,916 千円	2,432,482 千円
		公債費(c)	348,062 千円	352,180 千円	352,178 千円	543,130 千円
		計(a)+(b)+(c)	3,504,950 千円	3,276,251 千円	2,912,306 千円	2,998,873 千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		1,128,950 千円	932,251 千円	739,002 千円	796,830 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>地方分権の取組の推進のため、市町村の機能強化と簡素で効率的な行政運営の実現に向けて、市町村に対して支援等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市町村権限移譲推進費:239,350千円(市町村権限移譲交付金239,244千円等)</li> <li>2 元気な愛知の市町村づくり補助金:450,000千円(元気な愛知の市町村づくり補助金450,000千円)</li> <li>3 市長会補助金:4,500千円(市長会補助金4,500千円)</li> <li>4 町村会補助金:4,500千円(町村会補助金4,500千円)</li> <li>5 愛知県市町村振興協会交付金:2,376,000千円(愛知県市町村振興協会交付金2,376,000千円)</li> <li>6 山間市町村振興資金貸付金:60,000千円(山間市町村振興資金貸付金60,000千円)</li> </ol>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	市町村から権限移譲希望のあった移譲可能事務のうち、移譲した事務の割合	最終目標	毎年度100%	
				6年度	100%	100% (見込)
		5年度	100%	100% (実績)		
		2	補助事業実施市町村の割合	最終目標	毎年度100%	
				6年度	100%	100% (見込)
		5年度	100%	100% (実績)		
		3	市長会の計画された事業の円滑な実施	最終目標	毎年度100%	
				6年度	100%	100% (見込)
		5年度	100%	100% (実績)		
	4	町村会の計画された事業の円滑な実施	最終目標	毎年度100%		
			6年度	100%	100% (見込)	
	5年度	100%	100% (実績)			
	5	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
			6年度	-	- (見込)	
5年度	-	338円 (実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成 (判断の理由)                      ◎主要な指標:1(理由:市町村から希望があった事務を移譲することは、地方分権のために特に重要であるため。)                      ・主要な指標を含む管理事業すべての指標で目標を達成することができた。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、補助金の増額等により、4年度の323円に比べ15円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	引き続き現状を維持し、目標の達成に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0900	事業名	一時借入金利子			
所属名	総務局財務部資金企画課	評価責任者	資金企画課長 諏訪 智宏			
		作成責任者	神谷 悠介	ダイヤルイン	052-954-7418	
政策名	県行政の円滑な運営	施策名	予算の編成・執行管理を通じた健全な財政運営の確保			
事業目的	歳計現金の不足に伴う一時借入金の利子を支払う					
根拠法令・計画等	地方自治法第235条の3					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.10人( 0人)	1.10人( 0人)	1.10人( 0人)	1.10人( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)
	経費	人件費(a)	10,779千円	9,467千円	10,533千円	11,489千円
		事業費(b)	221,463千円	185,306千円	753千円	122千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	232,242千円	194,773千円	11,286千円	11,611千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		232,241千円	194,772千円	10,031千円	10,066千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>歳計現金の不足に伴う一時借入金の利子の支払いを行う。歳計現金の資金不足を適切に見込むことで、資金不足時において銀行からの一時借入を回避し、基金からの繰替えについても必要最少額に抑える。なお、一時繰替として使用していない基金については、一元的に運用することとし、まとまった運用額を金融機関へ定期預金するなど、できる限り運用益の拡大を図る。</p> <p>1 一時借入金利子:221,463千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	一時借入額(繰替使用額含む。)	最終目標	平成24年度決算未済	
				6年度	1,925億円/日	1,795億円/日 (見込)
		5年度	1,925億円/日	410億円/日 (実績)		
		2	負債当たりコスト(PL経常費用/BS負債合計)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
		5年度	-	1円 (実績)		
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
	5年度		(実績)			
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度		(実績)				
外部要因等	日本銀行の金融政策変更の影響で、金利情勢が見通せない状況にあるものの、令和5年度においては短期金利の変動がなかったため、一時借入金利子にかかるコストが抑えられた。					
目的の達成に関する評価	<p>A:目標超過達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:外部要因である金利の影響を除くと、一時借入額の多寡がコストに影響するため)</p> <p>―一時借入額(繰替使用額含む。)が目標値である平成24年度決算額を下回っているため。なお、令和5年度においても銀行からの一時借入は行っておらず、基金からの一時繰替えについても、必要最小限に抑えることで、金融機関へ定期預金するなど、できる限り運用益の拡大を図った。</p>					
コスト指標の増減分析	令和5年度の負債当たりコストは、令和4年度と同じ1円となった。					
課題	日本銀行の金融政策変更の影響により、短期金利が上昇する可能性がある。税収が急激に落ち込んだ際には、一時借入額(繰替使用額含む。)を大きく増加させざるを得ない場合がある。					
今後の方向性	引き続き、資金企画課が把握する予算、決算等の情報を活用し、収支をより精緻に見込むことなどにより、一時借入額(繰替使用額含む。)縮減に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0910	事業名	公債管理事業			
所属名	総務局財務部資金企画課	評価責任者	資金企画課長 諏訪 智宏			
		作成責任者	石黒 康賢	ダイヤルイン	052-954-6045	
政策名	県行政の円滑な運営	施策名	予算の編成・執行管理を通じた健全な財政運営の確保			
事業目的	一般会計で発行した県債の元金、利子、発行等諸経費及び減債基金積立金を予算執行するための財源を、一般会計から公債管理特別会計に繰り出す					
根拠法令・計画等	地方自治法第230条					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8.90人 ( 0人)	8.90人 ( 0人)	8.90人 ( 0人)	7.90人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	87,211千円	56,805千円	85,222千円	79,490千円
		事業費(b)	0千円	0千円	0千円	0千円
		公債費(c)	185,881,960千円	176,340,330千円	174,546,251千円	171,232,504千円
		計(a)+(b)+(c)	185,969,171千円	176,397,135千円	174,631,474千円	171,311,994千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		81,138,879千円	70,976,131千円	99,810,974千円	65,646,751千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>一般会計で発行した県債の元金、利子、発行等諸経費及び減債基金積立金を予算執行するための財源の、一般会計から公債管理特別会計への繰出しを行う。公債管理特別会計として、当該繰出金を財源に、県債の元金、利子、発行等諸経費の執行及び減債基金への積立を行う。予算に計上された県債について、金融市場や投資家動向等の把握に努め安定的に資金調達を行う。また、積立てた減債基金を活用し、債券運用等により有利かつ安定的な外部運用を行うことで、できる限り運用益の拡大を図る。</p> <p>1 公債管理特別会計繰出金:367,200,720千円(元金充当分176,169,897千円、利子充当分31,342,229千円、公債諸費充当分1,727,910千円、減債基金積立金充当分157,960,684千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	通常の県債の実質的な残高	最終目標	令和元年度決算以下(20,567億円)	
				6年度	令和元年度決算以下	20,433億円 (見込)
		5年度	令和元年度決算以下	19,734億円 (実績)		
		2	負債当たりコスト (PL経常費用/BS負債合計)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	5.4円 (実績)
		3	減債基金(満期一括償還分)債権運用額	最終目標	前年度以上	
				6年度	前年度以上	7,907億円 (見込)
				5年度	前年度以上	7,587億円 (実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度		(実績)				
外部要因等	日本銀行の金融政策の変更等によって金利が上昇局面にあり、昨年度と比較すると新規で発行した県債利子は上昇したが、利率が高い時期に借り入れた県債の償還終了に伴う分の県債利子が減少したため、全体として県債利子は減少した。					
目的の達成に関する評価	<p>A:目標超過達成 (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:通常の県債残高の抑制は、行革にも掲げる本県の重要取組事項であるため) ・通常の県債の実質的な残高は、令和元年度決算時以下としたほか、減債基金の運用額も目標を達成したため。</p>					
コスト指標の増減分析	令和5年度の負債当たりコストは、利率が高い時期に借り入れた県債の償還終了に伴う県債利子の減少等により、令和4年度5.6円に比べて0.2円減少し、5.4円となった。					
課題	日本銀行の金融政策の変更等によって、金利情勢が見通せない状況にあっても、できる限り低利かつ安定的な資金調達を図る必要がある。 また、減債基金においては、運用利率の向上を図り、安定的な運用益を確保する必要がある。					
今後の方向性	引き続き、特例的な県債を除いた県債の新規発行額の抑制に取り組むほか、公債費負担の抑制のため、減債基金における債券運用の増額による運用益の拡大に努める。 また、安定的な資金調達のために投資家需要の把握に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	0920	事業名	税関連交付金			
所属名	総務局財務部税務課	評価責任者	税務課長 市原 明			
		作成責任者	川上 貴久	ダイヤルイン	052-954-6047	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	県税収入の確保		
事業目的	地方税法の規定に基づく市町村への交付金の交付、地方消費税等の都道府県間での清算を行う。					
根拠法令・計画等	地方税法等					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0.30人 ( 0人)	0.30人 ( 0人)	0.30人 ( 0人)	0.30人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)	0人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	2,940 千円	2,840 千円	2,874 千円	2,952 千円
		事業費(b)	520,965,187 千円	539,028,257 千円	563,443,069 千円	532,727,168 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	520,968,127 千円	539,031,097 千円	563,445,943 千円	532,730,120 千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		520,968,127 千円	539,031,097 千円	563,445,943 千円	532,730,120 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>地方税法の規定に基づく市町村への交付金の交付、地方消費税等の都道府県間での清算を行う。</p> <p>1 地方消費税都道府県清算金:267,458,000千円                  2 市町村交付金:253,507,186千円(県民税所得割・利子割・配当割・株式等譲渡所得割・法人事業税・地方消費税・ゴルフ場利用税・軽油引取税・環境性能割・自動車取得税)                  3 利子割都道府県精算金:1千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	交付等誤りの件数	最終目標	0件	
				6年度	0件	0件 (見込)
		5年度	0件	0件 (実績)		
		2	県民当たりコスト (PL経常費用／本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	75,117円 (実績)
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
		5年度		(実績)		
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
	5年度		(実績)			
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度		(実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B: 目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標: 1 (理由: 適正な事務を表す指標であるため) ・交付期限、清算期限までに、交付額を誤ることなく事務を行った。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、地方消費税清算金の支出が増加したことにより、4年度の70,911円に比べ、4,206円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	継続して適正な交付事務を行う。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	1040	事業名	地域振興事業費							
所属名	総務局総務部市町村課 地域振興室		評価責任者	地域振興室長 今井 繁樹						
			作成責任者	白澤 杏香	ダイヤルイン 052-954-6064					
政策名	地域のバランスある発展の実現		施策名	特性を生かした地域づくりの実現						
事業目的	地域振興の企画調整、支援等の事業を行い、それぞれの特性を生かした地域づくりの実現を図る。									
根拠法令・計画等	山村振興法等									
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)					
			6年度(当初)		5年度(当初)		5年度		4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	19.20人 ( 12人)		19.20人 ( 12人)		19.20人 ( 12人)		19.20人 ( 0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 ( 1人)		1人 ( 1人)		1人 ( 1人)		1人 ( 0人)	
	経費	人件費(a)	191,747 千円		184,849 千円		179,810 千円		196,523 千円	
		事業費(b)	389,691 千円		342,619 千円		323,933 千円		318,281 千円	
		公債費(c)	110,090 千円		111,122 千円		111,218 千円		113,077 千円	
		計(a)+(b)+(c)	691,528 千円		638,590 千円		614,961 千円		627,881 千円	
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円		0 千円		0 千円		0 千円	
	経費のうち、一般財源等		588,761 千円		541,080 千円		514,513 千円		537,657 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	地域振興の企画調整、支援等の事業を行い、それぞれの特性を生かした地域づくりの実現を図る。 1 地域振興調整調査費:8,381千円(東三河県庁関連経費4,055千円等) 2 愛知の住みやすさ発信事業費:12,661千円(愛知の住みやすさ発信事業費6,950千円等) 3 東三河振興ビジョン推進費:6,369千円(ビジョン推進調査費4,000千円等) 4 東三河「新しい人の流れによる新たな魅力と価値」創造事業費:37,036千円(大都市圏関係人口、移住・定住創出事業30,970千円等) 5 東三河地域魅力発信事業費:19,947千円(東三河スポーツツーリズム推進事業15,964千円等) 6 東三河森林空間活用事業費:31,606千円(森林空間を活用した新たなサービス産業創出調査事業20,172千円等) 7 山村振興ビジョン推進費:121,342千円(あいちの山里「くらし」「ひと」「しごと」を未来へつなぐ事業費75,026千円等) 8 離島活性化事業費:28,552千円(離島の関係人口持続化・深化事業14,552千円等) 9 地域活性化センター負担金:900千円(地域活性化センター負担金900千円) 10 三河山間交流居住推進費:2,800千円(交流居住センター負担金2,500千円等) 11 過疎バス路線維持費補助金:120,097千円(過疎バス路線維持費補助金120,097千円)									
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込					
		1 山間地域への移住交流人口率 (移住者・交流人口/山間地域人口)	最終目標	1.00%						
			6年度	1.00%	1.00% (見込)					
			5年度	1.00%	0.89% (実績)					
		2 離島地域への観光客数の前年度比	最終目標	100.00%						
			6年度	100.00%	100.00% (見込)					
			5年度	100.00%	89.95% (実績)					
		3 愛知県地域づくり団体交流協議会登録団体数	最終目標	前年度から2団体増						
			6年度	前年度から2団体増	前年度から2団体増 (見込)					
			5年度	前年度から2団体増	増減なし (実績)					
4 東三河地域の観光入込客数(千人)	最終目標	24,600								
	6年度	24,600	24,600 (見込)							
	5年度	26,280	21,856 (実績)							
5 県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-								
	6年度	-	- (見込)							
	5年度	-	69円 (実績)							
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、移住交流人口は目標を下回っているものの、回復傾向にある。									
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:事業の目的を数値化したものであるため) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、移住交流人口率や他の指標について、目標を達成することができなかった。									
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、退職手当引当金繰入額の増額等により、4年度の68円に比べ1円増加した。									
課題	新型コロナウイルス感染症の影響によるオンラインイベントの開催増等により、現地訪問者の減少が懸念される。									
今後の方向性	引き続き東三河地域・三河山間地域・離島地域の魅力や移住・交流に関する情報発信と支援の充実を図っていく。									

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	1050	事業名	奥三河総合センター管理運営事業			
所属名	総務局総務部市町村課 地域振興室	評価責任者	地域振興室長 今井 繁樹			
		作成責任者	白澤 杏香	ダイヤルイン	052-954-6064	
政策名	地域のバランスある発展の実現		施策名	山村・過疎地域の活性化の実現		
事業目的	奥三河総合センターの管理事務及び指定管理委託に関する事業を行い、山村・過疎地域の活性化の実現を図る。					
根拠法令・計画等	愛知県奥三河総合センター条例					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.30人( 0人)	1.30人( 0人)	1.30人( 0人)	1.30人( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)	0人( 0人)
	経費	人件費(a)	12,739千円	12,308千円	12,476千円	13,050千円
		事業費(b)	77,592千円	65,232千円	80,867千円	68,177千円
		公債費(c)	7,205千円	6,236千円	7,276千円	6,578千円
		計(a)+(b)+(c)	97,536千円	83,776千円	100,619千円	87,805千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		1,241千円	945千円	1,080千円	1,241千円
経費のうち、一般財源等		96,295千円	82,831千円	79,258千円	57,641千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>奥三河総合センターの管理事務、指定管理委託に関する事業を行う。</p> <p>1 管理事務費:695千円(管理事務費695千円)                  2 管理運営委託費:41,180千円(管理運営委託費41,180千円)                  3 施設設備整備費:35,717千円(長寿命化実施設計委託費35,717千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	施設利用者数	最終目標	令和7年度 32,380人	
				6年度	32,347人	32,347人 (見込)
				5年度	32,314人	20,959人 (実績)
		2	郡内来館者・利用者率	最終目標	令和7年度 200%	
				6年度	200%	200% (見込)
				5年度	200%	179.50% (実績)
		3	宿泊室稼働率	最終目標	令和7年度 51%	
				6年度	51%	51% (見込)
				5年度	51%	42.80% (実績)
		4	施設利用者当たりコスト (PL経常費用/施設利用者数)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	4,683円 (実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
	5年度				(実績)	
	外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者数が減少したため、現在も大きく目標を下回っているが、5類移行後回復傾向にある。				
	目的の達成に関する評価	D:進展が大きくない (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:施設利用に係る端的な指標であるため。) 主要な指標である施設利用者数については、達成率は70%を下回ったものの、前年度比13.4ポイント増の64.9%となっており、新型コロナウイルス感染症の影響により低調であった利用者は回復傾向となっている。また、その他の指標である郡内来館者・利用者率及び宿泊室稼働率の達成率については、いずれも80%を超えており、今後、いずれの指標も目標が達成される見込みである。				
コスト指標の増減分析	5年度の施設利用者当たりコストは、施設利用者数の増加等により、4年度の5,382円に比べ699円減少した。					
課題	設置後50年以上経過し、建物や諸施設の老朽化が進んでおり、バリアフリーに対応した設備や、時代のニーズに合った施設への充実を図るため、中長期的な視野に立った抜本的な改修や再整備を推進する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した利用者は、回復傾向にあるものの完全には戻っていない状態にある。					
今後の方向性	老朽化が進んでいる状況であるが、一般の方々が利用する施設として、適正な管理運営をしつつ、中長期的な視野に立った抜本的な改修や再整備を実施していく。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	1120	事業名	情報推進事業			
所属名	総務局総務部情報政策課	評価責任者	情報政策課長 近藤 博			
		作成責任者	大須賀 萌	ダイヤルイン	052-954-6112	
政策名	地域の活性化に向けたITの利活用		施策名	電子自治体の高度化		
事業目的	県および市町村の電子自治体の推進に関する事業等を行い、行政情報の高度化および行政事務の効率化・迅速化を図る。					
根拠法令・計画等	サイバーセキュリティ基本法、官民データ活用推進基本法、自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画、愛知県情報化推進規程、あいちDX推進プラン2025等					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	39人 ( 0人)	32人 ( 0人)	32人 ( 0人)	32人 ( 0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 ( 0人)	1人 ( 0人)	1人 ( 0人)	1人 ( 0人)
	経費	人件費(a)	385,743 千円	306,033 千円	308,969 千円	317,472 千円
		事業費(b)	4,339,244 千円	3,845,057 千円	3,511,492 千円	3,221,037 千円
		公債費(c)	8,534 千円	8,549 千円	8,550 千円	62,378 千円
		計(a)+(b)+(c)	4,733,521 千円	4,159,639 千円	3,829,011 千円	3,600,887 千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		337,343 千円	341,992 千円	337,836 千円	444,433 千円	
経費のうち、一般財源等		3,299,095 千円	2,673,493 千円	2,336,837 千円	1,747,887 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>地域の情報化、市町村の電子自治体の推進、県Webサイト及び行政情報通信ネットワーク等の運用管理に関する事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 行政デジタル化推進費:167,239千円(生成AI活用推進事業費15,508千円)</li> <li>2 全国総合行政ネットワーク運営費:41,982千円(総合行政ネットワーク運営負担金36,911千円)</li> <li>3 公的個人認証サービス運営費:112,396千円(地方公共団体情報システム機構運営負担金112,396千円)</li> <li>4 県情報システム運営費:73,142千円(システム・情報機器運営費23,446千円)</li> <li>5 情報処理システム運営費:1,433,588千円(システム運営費(消県)911,964千円、職員ポータルサイトシステム運営費67,489千円、自治体情報セキュリティ対策運営費454,135千円)</li> <li>6 ネットワークパソコン等運営費:1,754,133千円(県行政事務用パソコン等運営費1,738,165千円、業務システム用パソコン運営費15,968千円)</li> <li>7 自治体共同情報化推進費:12,439千円(あいち電子自治体推進協議会負担金12,439千円)</li> <li>8 統合型地理情報システム推進費:13,295千円(統合型GIS運用費12,427千円)</li> <li>9 社会保障・税番号制度システム運営費:398,796千円(自治体情報システム強靱性向上モデル対応費355,818千円)</li> <li>10 テレワーク環境整備費:332,234千円(端末等リース料315,824千円)</li> </ol>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	行政情報通信ネットワーク利用職員の情報漏洩及びWeb改竄件数	最終目標	0件	
				6年度	0件	0件 (見込)
				5年度	0件	3件 (実績)
		2	4時間以上停止したネットワーク及び情報システム数	最終目標	0件	
				6年度	0件	0件 (見込)
				5年度	0件	0件 (実績)
		3	愛知県公式Webサイトトップページの一日当たりのアクセス件数	最終目標	8.5千件/1日	
				6年度	8.5千件/1日	8.5千件/1日 (見込)
				5年度	1.5万件/1日	13,322件/1日 (実績)
		4	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	506円 (実績)
		5		最終目標	-	
				6年度		(見込)
5年度		(実績)				
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:事業目的達成に係る基盤となる指標であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な指標について目標を達成した。</li> <li>・指標1については3件発生したが、情報セキュリティ対策会議の場で周知し注意喚起を行うなどの対策を取っている。</li> <li>・指標3は目標を達成しなかったものの、目標に対して80%以上の件数を達成している。</li> </ul>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、ネットワークパソコン等運営費等の増により、4年度470円に比べ36円増加した。					
課題	サイバー攻撃等の情報セキュリティ上の脅威が増大している。					
今後の方向性	サイバー攻撃等の情報セキュリティ上の脅威に対して対策を立て、情報システム及びネットワークの可用性を維持する。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

# 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	9010	事業名	公債管理事業			
所属名	総務局財務部資金企画課	評価責任者	資金企画課長 諏訪 智宏			
		作成責任者	石黒 康資	ダイヤルイン	052-954-6045	
政策名	県行政の円滑な運営		施策名	予算の編成・執行管理を通じた健全な財政運営の確保		
事業目的	一般会計で発行した県債の元金、利子、発行諸経費及び減債基金積立金を予算執行する。					
根拠法令・計画等	地方自治法第230条、地方財政法第5条の3、公債管理特別会計条例(平成4年3月25日 条例第3号)、減債基金条例(昭和54年10月24日 条例第28号)					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	0千円	0千円	0千円	0千円
		事業費(b)	0千円	0千円	0千円	0千円
		公債費(c)	712,872,133千円	751,840,708千円	755,653,113千円	743,895,852千円
		計(a)+(b)+(c)	712,872,133千円	751,840,708千円	755,653,113千円	743,895,852千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		179,754,000千円	219,897,000千円	752,939,229千円	741,650,620千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>一般会計で発行した県債の元金、利子、発行等諸経費の執行、利子収益積立金の管理、及び償還財源の積立等を行う。予算に計上された県債について、金融市場や投資家動向等の把握に努め、安定的に資金調達を行う。また、積立てた減債基金を活用し、債券運用等により有利かつ安定的な外部運用を行うことで、できる限り運用益の拡大を図る。</p> <p>1 県債元金償還額:513,831,876千円                  2 県債利子:35,555,066千円                  3 県債の発行及び償還に要する経費:1,727,910千円                  4 減債基金積立金:157,960,684千円                  5 減債基金利子収益積立金:3,796,597千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	通常の県債の実質的な残高	最終目標	令和元年度決算以下(20,567億円)	
				6年度	令和元年度決算以下	20,433億円(見込)
		5年度	令和元年度決算以下	19,734億円(実績)		
		2	県民当たりコスト(PL経常費用／本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	2円(実績)
		3	減債基金(満期一括償還分)債権運用額	最終目標	前年度以上	
				6年度	前年度以上	7,907億円(見込)
				5年度	前年度以上	7,587億円(実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	日本銀行の金融政策の変更等によって金利が上昇局面にあり、昨年度と比較すると新規で発行した県債利子は上昇したが、利率が高い時期に借り入れた県債の償還終了に伴う分の県債利子が減少したため、全体として県債利子は減少した。					
目的の達成に関する評価	A:目標超過達成(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:通常の県債残高の抑制は、行革にも掲げる本県の重要取組事項であるため) ・通常の県債の実質的な残高は、令和元年度決算時以下としたほか、減債基金の運用額も目標を達成したため。					
コスト指標の増減分析	県民当たりのコストは、令和4年度、5年度ともに2円となった。					
課題	日本銀行の金融政策の変更等によって、金利情勢が見通せない状況にあっても、できる限り低利かつ安定的な資金調達を図る必要がある。また、減債基金においては、運用利率の向上を図り、安定的な運用益を確保する必要がある。					
今後の方向性	引き続き、特例的な県債を除いた県債の新規発行額の抑制に取り組むほか、公債費負担の抑制のため、減債基金における債券運用の増額による運用益の拡大に努める。また、安定的な資金調達のために投資家需要の把握に努める。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

## 令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	9025	事業名	県税証紙取扱事業			
所属名	総務局財務部税務課	評価責任者	税務課長 市原 明			
		作成責任者	川上 貴久	ダイヤルイン	052-954-6047	
政策名	簡素で効率的な行政運営の実現		施策名	県税収入の確保		
事業目的	自動車税(種別割・環境性能割)及び軽自動車税(環境性能割)の証紙の取扱いを特別会計で行う。					
根拠法令・計画等	地方税法等					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	0千円	0千円	0千円	0千円
		事業費(b)	10,910,097千円	9,739,527千円	8,966,999千円	8,897,232千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	10,910,097千円	9,739,527千円	8,966,999千円	8,897,232千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
経費のうち、一般財源等		0千円	0千円	0千円	0千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>自動車税(種別割・環境性能割)及び軽自動車税(環境性能割)の証紙の取扱いを特別会計で行う。</p> <p>1 県税証紙取扱事業費:10,910,097千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	事務コスト率(手数料／証紙売りさばき代金)	最終目標	-	-
				6年度	-	(見込)
			5年度	-	0.0049円	(実績)
		2		最終目標		
				6年度		(見込)
			5年度		(実績)	
		3		最終目標		
				6年度		(見込)
			5年度		(実績)	
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
		5年度		(実績)		
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
	5年度		(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	-:評価無し(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:唯一の指標であるため) ・愛知県県税規則に基づいて行っている事業であり、コスト等を用いての評価はなじまない。					
コスト指標の増減分析	5年度の事務コスト率は、4年度の約0.0049円と同値である。					
課題	なし					
今後の方向性	継続して適正な事務を行う。					

\*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。